

# 四季

新年、教会の掲示板にはクリスマスカードや年賀状が近況を語ってにぎやかだ。なかでも八年前、神奈川県茅ヶ崎市へ二主人の転勤と共に移って行った上杉さんから、の便りには激しく胸を打たれた。

九州にいたころイラストレーターの彼女は健康な長男を連れ、小さな教会を色彩豊かにした。その後、茅ヶ崎で出生した二男は知的障害がある自閉症児という知らせに、私たちは心を痛めたものだ。しかし同封の新聞記事は彼女が代表の、障害のある子供や大人を

預かる「パーソナルサービスセンター」トムトムこの活動を載せている。アガリと二人。場所はアパルトメントの一室。放課後の子供と部屋や自宅で過ごしたり、希望する場所に付き添うサービスを常勤二人と委員の主婦が行う。利用料は一時間六百円から二十四時間、三百六十五円、障害の種類や預ける理由は問わない。「子供らがのびのび過ごすのを重視する」とは彼女の日常が割り出した対応だろう。

記事には彼女の二男が明るく遊んでいるのが写っている。親たちに普段と違うひとときを、障害者には「人として生きる力」を尋ねよう、と誓う。

## 障害者と共に

(四)